

Kumamoto Mental Health Hospital "REFLE"

りふれ

2025
Spring

春号

Vol.

82



Kumamoto
Mental Health
Hospital

医療法人 再生会

くまもと心療病院

♥ 地域に開かれた病院を目指して…

理念

くまもと心療病院は、精神障害者と共に暮らす、より良き地域社会の実現に向けて、地域における精神保健・医療・福祉に奉仕します。

基本方針

- ① 患者様やご家族に満足していただくために、医療サービスの質の向上に取り組みます。
- ② 全職種が一体となり、チーム医療を実践します。
- ③ 患者様の人権を尊重し、人に優しい安全な医療を提供します。
- ④ 患者様の地域生活を支援します。

巻頭言

2025年 春

医療法人再生会 くまもと心療病院 理事長・院長 荒木 邦生

今年の冬は寒くて長かったような気がした。ところが平均気温はむしろ暖かく暖冬の部類だったようだ。歳のせいで環境への適応能力が低下しているのは間違いない。

何でも歳のせいにしてしまうのは問題だが、アメリカのトランプ大統領の存在は老害と言える。古い価値観しか持ち合わせておらず、あまりにも傲慢で高圧的な手法で、自分の支持者向けの政治をしている。不動産の取引（ディール）と、国と国との関係を一緒にしないでほしい。しなくて良い戦争をしかけて負けた日本が、勝った国に従うことは、ある程度は仕方ないものの、トランプ氏は信用できないし好きになれない。日本は近隣諸国と独自の安全保障体制をつくって、アメリカ依存から脱しなければならぬ。少年時代に、アメリカのテレビドラマを観て、アメリカの音楽を聴いて、抱いていた豊かで強くて寛容なアメリカへの憧れはもう無い。そこにあるのは自己顕示欲の強い年老いたリーダーが「アメリカを再び偉大な国にする」と叫びながら、選挙に勝つことだけを目標に政治をする姿である。

病院の方は、病床利用率の低下と人手不足の問題を、何とか少しでも改善して病院経営を安定化させたい。そのためには私自身も入院外来とも診療で頑張らねばならないが、心身のケアもしながらなので、どこまで頑張れるか不安もある。父が亡くなった年齢にあと12年と迫ってきている。臨床医としての賞味期限はすでに過ぎ、消費期限も迫ってきている中で、残りの時間を自院と地域密着の仕事に専念したい気持ちが強いが、すんなりとはいかないかも知れない。

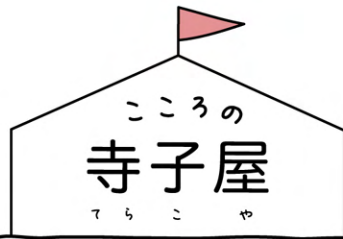
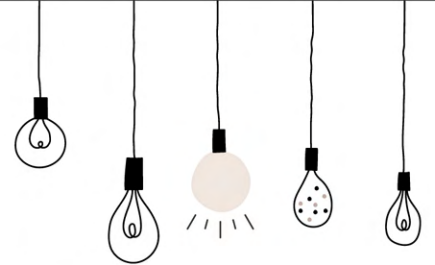
今年はお花見をすることができなかった。毎年桜の木の下でお弁当を食べて、少しだけ飲んで季節をしみじみと楽しんでいたが、タイミングが合わず雨の中孫たちと食事に行った。もっと暖かくなったらみんなでバーベキューでもできれば良いと思っている。そのように1年1年の季節を脳に刻み込むことを意識するこの春である。



りふれ 2025年 春号の表紙 …… 春のリフレクション

宇土市にある立岡自然公園の桜です。青空と桜のリフレクションが最高でした。満開の桜と水面に映る桜を眺めながら、遊歩道を1周散策し、リフレッシュする事ができました。みなさんこの時期に一度行ってみては、どうでしょうか。

（撮影者：西2階病棟 赤星 八由）



第18回

絵本

某書店のリニューアルオープンでビックリしたのは、子どもに関連したスペースが拡大し、特に絵本スペースを見せる配置空間です。少子化が続いているなかでも、書店の児童書や絵本コーナーは充実してきており、絵本の売り上げは伸びているそうです。

絵本コーナーに目をやると、年齢別に分けてある本のスペースに、本の紹介や人気度など、大人が情報として引き込まれる内容がさらっと掲示してあります。また、絵本と人気キャラクターのぬいぐるみが一緒に展示されたコーナーがあり、絵本を買ってあげようとする大人向けだけでなく、視覚的に大人も子どもも目を引かれる陳列とも思えます。

絵本の種類にも驚かされ、30年ほど前の変わった絵本といえば、私の記憶の中には飛び出す絵本というのがありますが、今の絵本は音が出たり絵に触れると恐竜の肌感を感じたりと感心します。ページを横だけでなく縦に開くと頭を下げて挨拶姿勢の仕掛けは、0歳から対象の絵本です。『三つ子の魂百まで』と言われるので、絵本を通して楽しく伝えていくのも、幼児成長の中で何らかの意味があるのではないかと思います。孫に購入してしまいました。実際に絵本を読むときには好んで持ってくるので、気に入ってもらえたようです。



ジム・トレリス著『読み聞かせ ～この素晴らしい世界～』の中には、子供の成長に合わせた読み聞かせの事が書かれてあり、その中で『子供が6カ月までは、読んでさえいれば、読むのが何であろうが、大きな違いはないのではないか、と私は思っている。この段階では大切なのは、子供が読むあなたのリズミカルな声に慣れ、それを平和で安全なひとときと結びつけるようになることなど…』と書かれてあります。この原稿を書くために読んでみた本ではありますが、読み聞かせの深さを知ることになりました。

今回のタイトルがなぜ『絵本』なのかというと、この原稿依頼がくる数ヶ月前になるのですが、我が子に読み聞かせしていた懐かしい本が出てきて、娘がその本を自分の子ども(孫)に読んでいる姿を見て、このタイトルを決めました。

残っていた1冊で私のお勧め絵本があるので紹介をします。『ラヴ・ユー・フォーエバー』という作者はロバート・マンチという方で親子の愛情の絆を静かに語りかける物語です。当時、子どもに読んで聞かせながらも目頭が熱くなった記憶があり、改めて読み直しても心にジンとくるものがあります。26年位前に購入した本なので、記憶は定かではありませんが、上の子が小学生低学年までは、寝る前に両サイドに息子と娘を休ませ絵本を読んでいたように思います。この頃は絵本というより物語の読み聞かせで、読んでいる私の方が文字ばかりが多い物語を読んでウトウト、両サイドからつつかれていた思い出があります。今、思うと保育園に預けながら日々忙しく過ごしていた中で、子どもにとっては保障された自分達のための時間だったのかもしれない。



Profile

看護師

濱永 二三代

Fumiyo Hamanaga

2025年4月から認知症老人グループホーム「ぬくもり」勤務
医療法人再生会での勤務約30年、子供は2人。息子と娘はそれぞれ所帯をもち、1歳11か月と1歳8か月の孫がいます。月に数回孫のお世話中。



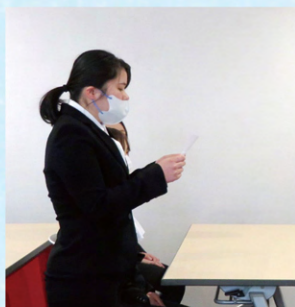
令和7年度 入職式・新人オリエンテーション

令和7年4月1日(火)、医療法人再生会令和7年度入職式が執り行われました。理事長挨拶の後、新入職員の代表挨拶をリハビリテーション科に入職される田上かれんさんが述べられました。

4月2日～3日の2日間は、新人オリエンテーションを実施しました。参加者は11名と例年より少なかったのですが、少子化の時代に10名以上の仲間を迎えることができ、とても嬉しく思っています。オリエンテーション初日は緊張の面持ちでしたが、少しずつ和やかな雰囲気となり、後半のBLS(一次救命処置)研修では笑顔で積極的に実技訓練にのぞんでいる姿が印象的でした。受講後の感想では「患者さんの思いに寄り添えるになりたい」、「気持ちに共感できるようになりたい」、「信頼してもらえる職員になりたい」という言葉が多く聞かれました。これから現場で仕事に向き合うなかで、悩みや困難を感じることもあるかもしれませんが、多くの経験豊かな先輩たちがいます。お互いに手を取り合ってがんばっていきたいと思います。



入職式 理事長あいさつ



新入職員代表あいさつ



新人オリエンテーション

くまもと心療病院 2025年 春 行事食のご紹介

くまもと心療病院では、季節のイベントや旬の食材を使った行事食を提供しています。患者様が季節を感じられるよう、栄養科のスタッフが献立を考えています。



ひなまつり

ちらし寿司を中心に、すまし汁に菜の花を入れ、ピンク色の食材を使い春らしい献立にしました。甘味には女雛の生菓子を準備し、患者様にもかわいいと好評でした。

お花見弁当

3月27日のさくらの日に毎年恒例のお花見弁当を提供しました。今回はアンケートで要望の多かった唐揚げをメインに、患者さまに春を感じてもらえる様に、彩りや盛り付けを工夫しました。「美味しかった」「また食べたい」と嬉しい感想を沢山頂きました。



新任&退職のご挨拶



新任 看護部長 堀川 利枝

このたび、看護部長を拝命いたしました。前任の濱永部長は、どんなことが起こっても、臆することなくひとつひとつに根気強く向き合うことで困難を乗り越えてこられました。そのような仕事に対する姿勢から、

物事に真摯にとりくむことの大切さを教えていただいたと思います。その学びを糧にして精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

少子高齢化に伴い、精神医療も既存のシステムでは成り立たなくなる時代がやってきます。また、多様性を認め合う社会においては、リーダーシップの形も変化していかなければなりません。ただし、看護という仕事では「相手を思いやる心」を変わることなく持ち続けることが必要だと思います。多くの先輩方が積み重ねてきた精神科看護への思いを次につなげていくことができるよう、皆で力を合わせて前進していきたいと思っています。

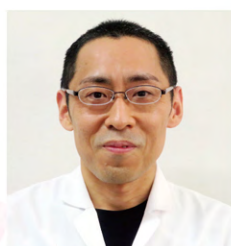


退任 前看護部長 濱永 二三代

看護部長として約10年、熊本地震・新型コロナウイルス感染症拡大と想定できない状況を経験しました。頭を抱える様な困難な状況もありましたが、一つ一つを乗り越えたのは皆さまの助言や労いの言葉でした。院内にお

きましては上司のご支援はもとより、共に立ち向かって時には無理なお願ひにも対応してくれたスタッフの力だと感謝しております。

4月からは新たな勤務環境になりますが、今まで培った経験を生かしながらか頑張っていきたいと思っています。



退任 医局 山口 祐介

熊本大学病院の医局からの派遣で1年間、常勤として働かせて頂きました。当院では主に急性期病棟の患者様を多く担当させて頂きましたが、受け持ち数にもある程度余裕があるため、一人一人じっくりと患者様と

向き合う時間を作ることができました。特に PTSDの方に認知行動療法を導入し、症状が改善していく過程を診ることができたのは、大変貴重な経験でした。また、専門医の先輩方にすぐに相談できる体制が整っている中、毎週新規の認知症例を診させて頂き、大変充実した後期研修となりました。至らぬ点多々あったかは存じますが、ご指導ご鞭撻のほど誠にありがとうございました。来年度からは4年ぶりに大学に戻る予定ですが、組織体制が大きく変更されるタイミングでの帰局となります。今まで研修してきた医療機関との連携をより一層深めて、患者様に満足のいく医療を提供できるよう心掛けていきたいです。1年間、ありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。



新任 医局 両角 香奈

2025年4月より、くまもと心療病院で勤務させていただきます医師の両角香奈と申します。2022年に熊本大学精神科医局に入局し、熊本大学病院で1年間、熊本県立こころの医療センターで2年間勤務しております。

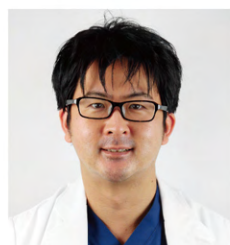
今年は医師になって6年目、精神科医としては4年目になります。医師としても人としてもまだまだヒヨッコではありますが、経験豊富な先輩方にご指導頂き成長していければと思っております。精神科医としての資格はまだ何も取得できておらず微力ではありますが、当院での診療も精一杯頑張っておりま



退任 前医局長 今井 正城

本年3月31日付で退職致しました。平成29年4月から8年間認知症専門外来と認知症病棟で診療を大過なく、どうにか無事に努めることが出来たのも、院長をはじめ職員皆様のおかげと感謝しております。平成29年4

月に社会人大学院生となり、同時にくまもと心療病院で週4日の勤務が始まりました。毎週1日大学病院で認知症専門外来の診察を行い、夕方からは夜10時まで行われる認知症診断カンファに参加しておりました。大学病院での診療は当然無給でした。そこで学んだ診断、治療をくまもと心療病院の認知症専門外来の診療で実践、そして疑問に思ったことは大学病院の診断カンファに持って行ってぶつける、その繰り返しでした。医療の奥深さと目の前の患者さんの治療に活かせる知識を身につけられる喜びがありました。心療病院で学んだことを胸に新天地でも認知症診療に従事してまいります。最後になりましたが、皆様のご活躍とご健康を心よりお祈りしております。本当にお世話になりました。



退任 医局 三角 雅裕

いつも大変お世話になっております。くまもと心療病院に勤務しておりました三角雅裕と申します。当院には令和3年4月に常勤として勤務を開始し、翌4年4月からは非常勤として勤務しておりました。私は医

局に所属していたため、短期間の勤務となることが多い中、当院には計4年間という比較的長い期間務めさせて頂きました。振り返ってみるとあっという間だったように感じます。未熟ゆえに皆様にご迷惑をおかけすることも多々あったかと思いますが、今まで大変お世話になりました。今後は別の病院で勤務することになりますが、当院で学んだことを活かしながら頑張りたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。末筆となりますが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りしております。4年間ありがとうございました。

シリーズ
医療の資格⑱

オレンジナース

O r a n g e N u r s e

「オレンジナース」とは、認知症対応推進看護師のことをいいます。認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)の一つとして、熊本県内で病院に勤務する医療従事者に対して、認知症対応力向上研修を実施しています。これは認知症対応力向上を目的としており、この研修を受講した看護師がオレンジナースとなり、院内で認知症対応研修を行っています。

【オレンジナースの役割】には、

- ・研修で学んだ知識を院内研修を通じて共有すること。
- ・認知症の患者が元の生活に早期に戻れるよう図ること。
- ・患者や家族の思いを大切に、その方らしく生活を送れるようにサポートすること。
- ・多職種と連携を図り、できる限り住み慣れた環境で生活できるようにお手伝いすること。

といったものがあります。

私は、昨年くまもとオレンジナース養成研修を受講し、オレンジナースに認定されました。日頃は重度認知症患者デイケアぎんなんで勤務しています。

利用者様との対応において一度では伝わらないことも多くありますが、対応を工夫することでコミュニケーションが円滑に進められ相手が何をしたいのか、思いを理解することに繋がることがよくあります。認知症への対応で大切なことは、相

手に興味を持ち、どの様に対応するかを考える事だと思います。「どうせ忘れるから」などではなく、相手の気持ちを知ろうとすることが大切です。

ケアの場面で相手からなかなか思うような反応が得られない場合、介護者もイライラした気持ちになる時がありますが、それは認知症の方に伝わり悪循環になる事があります。認知症の症状を理解すること、病態を知ったうえで基本的なケアを心がけていくことで、日常的に認知症の人の対応ができるようになると思います。認知症の方がどのような思いを持っているのか、意思を尊重することが大切です。医療従事者が認知症の病態や対応について正しく理解し、認知症の方が元の生活に早期に戻れるよう図ることが重要です。

今後もスタッフへの教育と共に認知症の方が住み慣れた環境で在宅生活を維持できるように、不安や相談事を医療につなげ、社会資源とのパイプ役を果たしていきたいと考えています。

(重度認知症患者デイケア ぎんなん 主任 松田 浩子)





令和6年度 宇城認知症地域連携懇話会学術講演会／認知症疾患医療センター事例検討会

2月7日にウイング松橋で事例検討会を開催し、130名の方が参加されました。小規模多機能型事業所ぬくもり吉田 友美管理者より事例提供、くまもと青明病院 宮川 雄介先生より「アルツハイマー病の早期診断と新しい治療」をテーマに講演していただきました。

令和6年度 第2回 熊本県認知症疾患医療センター事例検討会

3月1日(土)、熊本県立劇場にて事例検討会を開催いたしました。当院からは、院長が「くまもと心療病院におけるレカネマブ継続投与の現状」と題して事例検討に登壇されました。



お知らせコーナー

令和6年度 第2回 家族教室



2月15日(土)、令和6年度2回目となる家族教室を開催しています。濱永前看護部長より「院内広報誌から読み取る病院の歩み」と題して講話がありました。後半は参加していただいたご家族さまと職員で懇談会をおこなっています。次年度も年2回の家族教室開催を予定しております。

交通安全教室

3月7日(金)体育館にて生活訓練施設「ソレイユ」、うきうき地域生活支援センター、精神科デイケア「ソシエ」の利用者を対象に交通安全教室が行われました。当日は宇城地区交通安全協会の講習員2名を招き、宇城・宇土地域の事故の現状、自転車の罰則強化(スマホや飲酒運転)について、ヘルメットの必要性、『てまえ運動』について、反射材の付け方などについての話がありました。



編集後記

いつまでも寒い日が続いていると思っているうちに確実に花の蕾も膨らみ、春の準備が進んでいたようです。色んな事が始まる時期で気持ちが落ち着かない事が多いかと思います。息抜きしつつ、頑張りすぎないように程よくやりきりたいですね。

(東3階病棟 OT 草野)



関連施設

医療法人 再生会

■地域拠点型認知症疾患医療センター	☎0964-22-1106
■すみれ訪問看護ステーション	☎0964-22-0402
■認知症高齢者グループホーム「ぬくもり」	☎0964-22-1118
■小規模多機能型居宅介護「ぬくもり」	☎0964-22-7277
■うきうき地域生活支援センター	☎0964-22-2510
■自立訓練(生活訓練)事業所「ソレイユ」	☎0964-22-5366
■障がい者共同生活援助グループホーム「まつやま」	☎0964-22-5501



外来診療

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	休 診
午後	○	○	○	○	○	休 診

診 察	月～金曜日	午前の部	9:00～12:30
		午後の部	14:00～17:00

◆休診日：土曜日・日曜日・祝日

お盆休み(8月15日)・年末年始12月30日～1月3日

※ 診察券は、受診時に必ずお持ちください。(診察券は大切に保管してください)

※ マイナンバーカード(保険証)は受診の都度ご提示下さい。

※ 診察はすべて予約が必要です。事前にご連絡ください。但し、急患はこの限りではありません。



交通のご案内

- JR鹿児島線・三角線 「宇土駅」下車
→バス(約20分) →タクシー(約10分)
- JR鹿児島線 「松橋駅」下車
→タクシー(約5分)
- 産交バス熊本方面から八代・松橋行
→「松山」下車 (徒歩1分)
- 産交バス松橋方面から熊本行
→「松山」下車 (徒歩1分)
- 松原交差点から八代方面へ車で約5分

